

## 第2回音楽療法講座

### ♪ 主催側として ♪

#### 行動へ移してこそ

国6-本 黒田 宏

昨年に続きことしも音楽療法講座を開催することになり、9月6、13、21日の3日間にわたってKSC音楽教室で実施した。ことしは助成金を受ける条件として一般市民からの参加が必要となり、一般市民20名、在校生7名、グループわ会員29名、合計56名の受講者があった。

第1回のときもそうであったが、今回も音楽療法に対する関心が非常に高く、受講者の熱意を感じた。例えば受講理由として「音楽は癒しの基本的手段」と記載した人もあった。ほとんどの受講者はすでに各施設でボランティア活動を行っており、自分達の活動をさらにレベル・アップする目的で音楽療法について学び今後活かすためと考えられる。初日の前半は緊張気味であったが、ワークとロールプレーでは全員が楽しくまた真剣に取り組んでいた。

アンケートでは「この講座が施設と言う特定の場所において音楽による対象者との関わり方だけでなく、例えば家庭内における子どもとの接し方、夫婦間の会話にも役立つ」と述べている参加者もいた。確かに「受容」、「同質の原理」と言う基本はまさにこれを表しているものと思う。また多くの受講者からこの

講座を今後も続けて欲しいと言う要望があった。

受講者の中からは、講師が実際にしあわせの村内で音楽療法を行なっている施設の見学をしたいという申し込みがあり、その熱心さが伝わってくる。ある病院で通訳ボランティアを行なっているグループの標語に“Love is service translated into action.”と言うのがあった。まさに学ぶだけでなく、行動に移すことが本当の支援であり愛であると思う。カレッジの卒業生で「百言は一行に如かず」と言った方がおられたとのこと。

受講者の皆さんの今後のご活躍を祈願しています。



### ♪ 受講者として ♪

#### 音楽はバリアフリーの共通語

生1-環 小島 哲

第1回講座には人気の枠に押し出されて落選、2度目の今回はぜひとも、の思いを込めて応募理由に知恵を絞った。次のコメントだ：

「音楽こそバリアフリーの共通語。『癒し』のキーワードになる力であり、心の栄養素、サプリメントです。ボランティアを含む人間関係の構築には欠かせない要素だと思います」

9月、しあわせの村に  
関係する音楽療法士3名



鳴子を鳴らして健康体操



リズムカルにお餅付き

から子ども、成人、高齢者を対象にした3講座それぞれの音楽セラピーの理論と実践について、有意義かつ楽しく学習。応募理由に挙げた仮説？を予期以上の実りに結びつけることができ、企画・運営関係者と各先生に感謝している。

わの友愛訪問活動が開講のきっかけとなり、目的はボランティア活動のレベル・アップと言う。TVや新聞・雑誌に音楽療法の話場が登場することが多くなった。その内容は専門家への道筋を示すものか、一般的な知識を情報として提供するものかに偏っているように思う。その点、今回の講座のあり方は実践活動に重きを置いた、直ちにス

キル・アップに繋がる有意義なものである。

音楽療法は「ひと」と「ひと」の間にある人間らしい観点から、高齢者、障害者(児)、子ども、健常者、さらには教育や民族の違いなど、障壁を少しでも低くする上で、また癒しのエネルギー源として音楽に光を当てている。今後ますます注目される領域であり、理論的にも各種データを積み重ねての充実が予想される。

主催のわには、ホップ・ステップ・ジャンプの第3回音楽療法講座の開催が、どのような内容で実施されるか、大いに楽しみにし、期待している。